

第12回学長カフェ【2019.2.15】（学生の意見と回答について）

学科	No	学生からの意見・要望	担当部署回答	当日の学長回答（要旨）
国際観光	1	図書館について① もっと勉強したいので、定期試験期間中の開館時間を21:00から23:00に延長できないか。近隣の飲食店で勉強している学生も多く、苦情の元にもなっている。	図書館 定期試験中に図書館を活用して頂くのは良いことですが、夜遅くまで開館するためには第一に利用者の皆さんの安全確保、第二に開館するために必要なスタッフ体制が必要となります。ご要望については理解できますが、地理的な課題より閉館時間は公共交通機関の最終の時間に併せています。図書館では21時までに必要な資料を借り、閉館後は安全な自宅での学習を習慣付けするなど計画的な試験勉強をお願いしたいと考えます。なお、試験期間中は日曜日の開館を実施していますので是非活用してください。	図書館の開館時間は、学生からの要望をくみ取って日曜日も含めて拡大させてきた。要望のように深夜まで開館とすれば、①図書館スタッフ数と労務上の問題、②深夜に帰宅する学生の安全配慮の問題、この2点をクリアせねば実現できない。資料の有無もあるだろうが、本質的に自宅でも勉強できる環境やモチベーションを各自で維持して欲しい。
	2	成績等のWeb上における閲覧について① 利便性を考え、また他大学のように、成績評価や履修状況など、紙媒体ではなくManabaのようなウェブサイトで閲覧・確認できるようにならないか。前に同じ要望を出しているが、検討結果か進捗状況が知りたい。	教務課 現行のシステムの更新の時期を迎えるため、学生の皆さんの要望並びにセキュリティ等の状況も踏まえて検討を行いたいと考えています。なお、履修状況については、出席管理システムで確認できる状態にあると考えています。特に、この時期は、履修登録など大切な時期であることから、成績表等を直接配布することで学生の皆さんとコミュニケーションを取ったり、質問への対応の期間と考えており現在は、紙媒体で配布していることご理解下さい。	検討はしているが、情報の安全管理、特にWeb上での確実なセキュリティ構築は難しい。また実現のための電算システム改修は一朝一夕ではできないし、コストの問題もあり、現在は検証を重ねている。紙媒体は原始的かもしれないが、教員の立場から言えば面談時などのコミュニケーションツールとして活用できるメリットもあることを理解して欲しい。
	3	成績等のWeb上における閲覧について② 同じく利便性の追求から、追再試の対象者発表はpdfデータとしてManaba上で発表できないか。	教務課 定期試験の終了後、成績の確認依頼、提出状況の確認、追試験及び再試験の該当の有無を確認し対象者を発表しています。追試験の受付期間、再試験については科目数や実施状況が異なるため、確認に多くの時間を要している現状をご理解ください。また、Manaba上での発表は、全学生が見ることができることから、そのことに不快感があるとの意見もあり考慮してのことです。	学部によって発表スケジュールが異なるなどの問題もあるが、前向きに検討したい。ただ、先生方が定期試験+αで成績をつける手間、それを誤りなく実行していることを知っておいてもらいたい。
	4	グローバルツーリズムコースについて① 2年生の後期から長期留学が始まる。今年数多く入学した1年生に関する留学先選定に関して、例年であれば帰国した先輩の話を聞いて希望調査を提出できていたが、今年はその機会もなく生の情報なしに留学先が決定している。加えて、去年まではIELTSのスコアも希望留学先に影響があったことを振り返ると、今の1年生はIELTS受験時には既に留学先が決まっており、決定までのプロセス変更にも不安が残る。また、大学としてグローバルの学生をサポートしている国際交流・留学生支援室スタッフの支援にも力を入れてもらいたい。	教務課/国際観光学科 2018年6月6日に留学報告会を兼ねたインターナショナルフェアを開催し、上級生の体験談の講演および相談ブースを設置して対応を図った。また、毎週水曜日に行なっているE-up Lunchでは上級生との交流も行っており、上級生から直接留学先の情報を入手する機会は半年間くらいの期間がとれるよう配慮している。グローバルツーリズムコースが開設する以前は留学希望者が年間に数名であり、2017年度まではそれまでの少数対応の選考方法のままであったが、留学希望者数の増加と留学先の多様化に伴い、学生のビザ取得手続き（ビザ取得面接等）完了が渡航直前となり、余裕がない状態であった。ビザ取得には時間的な制約があるため、学生に不利益にならないよう、より確実に余裕を持ってビザの取得を行えるようにすることを主眼として、2018年度より選考時期を変更した。また、選考試験を年1回に変更し、選考過程の複雑さを解消し、明確化を図ったが、IELTSの結果による留学先決定の変更の可能性は従来からの選考方法と変わりはない。一方で、以前はIELTSを福岡まで受験しに行く必要があったところが、昨年度から本学で受験できるようになった点は、以前の学生よりも利点が増している。国際交流の留学手続き担当が一名である上に、全学的な留学支援や国際交流業務の担当であるため、グローバルツーリズムコースのみの担当としての支援は困難である。留学希望者や協定先が増加している現状を鑑み、支援体制の構築について検討する。	時流もあるのだろうが、前はTOEICのスコア、あるいは換算したスコアを利用していたと思うが、IELTSになったのは、そのスコアが大学（コース）として必要な成果になっていると考える。ただ、その受験が必須になり、留学先決定のスケジュールに前後するようであれば、例えばTOEICのスコアを留学先決定の1材料とするなど工夫できないか、グローバルの教員に確認していきたい。
	5	グローバルツーリズムコースについて② IELTSのスコアを学内でどう利用するかについては異論はないが、留学先によって、そのスコアで受入が断られたり、授業料免除がなくなったりと学生にとって不利益が大きいの、その逆も然りである。	教務課/国際観光学科 文面から判断すると、本学の留学制度を十分に理解されていないように感じることから、今後も引き続き、学生の皆さんへ説明を行いたいと思います。IELTSのスコアの要件は本学の基準ではなく、受け入れ先の要件であるため、スコアが到達しない場合は、英語力不足による受け入れ不可ということになる。アカデミックレベルの留学およびIELTSによる授業料免除枠を希望するのであれば、IELTSの指定された要件は欠かせないため、そのスコアを取得するしかない。学生にとって不利益というわけではなく、努力によって手にできるチャンスは平等に提供している。また、IELTSのスコアによって英語特待生になるチャンスもあるため、努力して結果が出る学生にとっては、さらなる利益が供与されている。一方で、IELTSの要件がなく、授業料免除で留学できる大学もあるが、今年度は希望者が少なく、無料枠が余るといふ、利益の供給に対し、需要がないという場合もある。国際交流センターの努力によって、第1期生の時よりも協定校の数は増加しており、IELTSのスコア次第では、選択肢は広がるようになっていくことを繰り返し学生には周知し、より良い選択ができるように支援を行っていく必要があると考えている。	留学先の開拓や選定は先生方も苦慮していると思われる。ポイントは、IELTSの試験後に留学先を決定することだと思料されるので、その点をグローバルの教員に再検討させたい。
		国際観光学科の特待生制度について	学生課	

学科	No	学生からの意見・要望	担当部署回答	当日の学長回答（要旨）
	6	私は保健体育の教員を目指しており、ここに関わる先生方は本当に親身に、時間を割いて支援してくれている。また、単純に教育学部に進学するよりも観光学を中心に広い視野を持つことができることが嬉しい。 ただ、国際観光学科は入学時に特待生が決まってしまうと、学年進行上の成績やGPAがどんなに高位でも特待生になれるチャンスがない。新しく制度設計できないか。	入学時に選抜される特待生選出は、学部学科、あるいは強化指定部の競技種目によって、結果的に偏りが見られる制度となっているのは事実です。 ご指摘の点は、時間がかかっても制度設計を見直す予定です。あなたの想いが、少なくとも後輩には反映されるよう、学生委員会を中心に再検討していくことを約束いたします。	同じ意見を前期にもらい、学部長と話し合いを持ったが、現在は特待生の枠が決まっていること、他学部のように原級留置き制度がないので、例えば薬学部のように特待生降格分を他の成績優秀な学生に振り分けることが難しい状況だとのことである。 ただ、入学後に成績や成果を出した学生への新特待制度の検討、あるいは外部奨学金の獲得など、改めて依頼していきたい。
	7	就職支援について（感想） 今3年生なので、いよいよ就職活動が始まる。それに向けて学内での履歴書用写真撮影会やメイクアップ講座が開催されるなど、私自身が疎い点にプロのアドバイスを受けることができ、とても助かっている。	キャリアセンター 本年度は更に充実した形に進化させ実施していきたいと考えています。この目的を、自らの将来について自律的に考え就活に取り組むためのきっかけづくりの一環と位置付けています。キャリアセンターで実施する様々な就活ガイダンス・セミナー等には積極的に参加し自分の将来と向き合ってください。このような感想を学生から聞くことは我々にとっても大きな励みとなります。	
	8	ピアサポートについて（感想） NPSという活動に参加しているおかげで、例えばバリアフリーMAP作成の機会や、長崎大学や九州大学など他大学の学生と交流する機会を得ることができ、学生生活の充実に繋がっている。	保健室 NPSは本学のピア・サポート活動のさらなる充実に向け、2018年度より開始したピア・サポートに関する学生組織である。執行部の学生を中心に活動を展開し、ピア・サポート活動に関する意見集約や研修会の実施、先進校視察、バリアフリーマップの作成など、多方面で活躍した。今年度も継続して活動する予定。是非積極的に参加し、交流と学びの機会にしてほしい。	
	9	硬式野球部について【アンケートより】 今回も学長Caféに参加でき、うれしく思います。正直、自分としてはこの大学に来て悪い面ばかり見ている、例えば部活動の偏りや、何をしに大学に来ているか分からない学生に振り回されたりなど、改善して欲しい面ばかりです。特に野球部、良い人も沢山いますが「野球しにこの大学に来たから」といって勉強せず、本気で学習している人への邪魔であったり、授業中うるさかったりと、とても迷惑です。なぜその人たちが特待生なのか分かりません。夢に向かってGPAも3.5以上キープして頑張っているのがバカみに思えます。もう少し改善して欲しい。	硬式野球部 大切な時間や意志を削ぐ様な振る舞いをしている部員がおり、ご迷惑をお掛けして大変申し訳ありません。練習中や学内で声掛けを行って意識の高揚を図っているのですが、多分に学生自身に浸透できていない部分があることは認識しております。スタッフミーティングにて審議し、生活担当・授業担当を決め文武両道を掲げる部の引き締めに取り掛かったところであります。その他、意識改善の計画としまして、代表学生が参加する定期的なリーダーミーティングの実施による情報共有及び組織づくり。部員全員との個人面談による個々人の規範意識と向上心の育成に注力して参ります。本学を代表する強化指定部であることを自覚させ、飛躍と奉仕の精神を育成して参ります。	
	10	成績発表のスケジュールについて 私としては、成績表が紙というのに不満はない。それを机の前に貼り、現在のGPAと次の目標を書いてモチベーションを高めているから。それよりも定期試験後の合否発表までの期間が長すぎることに不安と不満がある。	教務課 学年暦を検討する際には、全体的な日程と学生の皆さんができるだけ無理のないように定期試験を受けられるようにと10日間の期間を確保するよう日程を調整しています。また、教員が成績を慎重に誤りなく対応できることも考慮しています。 定期試験については、学生の皆さんの履修状況、試験の重なりなどを鑑み時間割を作成しています。先生方は、定期試験の際にも、担当科目の試験監督だけではなく、試験が円滑に運営できるよう他の科目の試験監督も担当されています。その中で、先生方は、採点をされています。 また、定期試験終了後、再度、勉強する期間を設け再試験が実施されるよう配慮し、最終成績を発表することとしているため、現状のスケジュールとなっていることをご理解ください。	先に話した通り、成績を出すことは慎重に誤りなく行わなければならない。昨今では、成績評価に疑義が出された場合、その根拠を示す必要もあり、そういったエビデンス整理も必要であり決して簡単ではない。 また、試験時間割も学生の試験数に配慮して組み立てたり、先生によっても担当科目数の多い少ないもあって今のスケジュールとなっていることを理解して欲しい。
	11	施設整備について① トイレの便座ヒーター、ウォシュレットの導入と、音姫（擬音装置）の修理をお願いしたい。	総務課 擬音装置は申し出があれば都度対応していますので、事務局までご連絡ください。 ヒーターとウォシュレットを導入すると、工事費用は当然ですが、その後の故障や清掃の手間の増大等のランニングコストも発生することを理解して頂きたい。 ただ、必要性があることは理解していますので、学長の回答の通り、多目的トイレは随時改修しています。	不具合については、発見次第、ゼミの先生あるいは事務局に申し出して下さい。 ヒーターやウォシュレットについては、必ず電気配線工事が必要になるため、大規模改修に伴うコストや工事期間のハードルは高い。しかしながら、多目的トイレを少しずつでも増設するなど、可能な範囲で努力していることは分かって欲しい。
	12	バリアフリーについて 児童心理学の授業で来学した諫早特別支援学校の生徒や先生の話によると、バリアフリー設備が使いにくい、不必要にある、といった意見があった。在籍の障がい学生にも協力を仰ぎ、アンケートや調査を実施した上で、改善すべきポイントは改善して欲しい。	総務課 支援の必要な学生からの意見は、入学時等にCHサポートセンター等を通じて本人や保護者からの要望を確認し、できるだけ対応は進めているところですが、年々支援の必要な学生数や、その支援の種類も増加傾向にあります。一見、不要と思われるバリアフリー設備も、卒業生など過年度生にとっては有用であった可能性もある一方、技術革新など設備の機能向上等により、既存のものが古くなり相対的に機能性が低下しているという意見もあるかと思えます。但し、大学として合理的配慮義務は果たす必要がありますので、まずは意見を聞き、その後、予算も考慮しながら、検討・対応していきたいと考えます。	CHサポートセンター主催のピアサポート研修会において、学内のバリアフリーMAPを作成しているため、当MAPや利用者の意見を基に、早急に改善していきたい。
		フレッシュマンセミナーについて	学生課/社会福祉学科	

第12回学長カフェ【2019.2.15】（学生の意見と回答について）

学科	No	学生からの意見・要望	担当部署回答	当日の学長回答（要旨）
社会福祉	13	<p>新入生のフレッシュマンセミナーについて、社会福祉学科はハウステンボスの観光だった。もっと社会福祉を意識した、福祉関連の学習に沿ったセミナーの内容にして欲しいと感じた。</p>	<p>【学生課】 学生委員会が主管しているイベントですが、学長の回答と同じく新入生同士、または新入生と教員との親交を深めることを目的としており、2018年度参加者アンケートの結果も満足度は80%を超えています。 2019年度には、ハウステンボス観光だけでなく、午前中に学内で疑似高齢者体験を実施するなど学科のカラーを見せているので、今後もよりよいプログラムを企画検討して参ります。</p> <p>【社会福祉学科】 社会福祉学科のフレッシュマンセミナーの目的は、①「【相互理解・交流】新しい友達と1日を過ごす中で仲良くなる」と、②「【福祉的視点の発見】他者に安心を与えるコミュニケーションについて理解を深める」の2つを掲げ、②の目的を午前中の名刺交換会とブラインドウォークにて達成できるよう努めた。今回のご意見から改善点が見いだせたので、感謝したい。ついては、学科として福祉関連の学習ができるようプログラムを改善していきたいが、フレッシュマンセミナーの主眼も理解して欲しい。</p>	<p>申し出は理解できる。しかしながら、フレッシュマンセミナーの目的は学科内の交流促進、同級生同士の親交を深めることにある。本学のフレッシュマンセミナーでは、この点を主眼においていることを理解して欲しい。</p>
	14	<p>子ども食堂について</p> <p>私は子ども食堂に1年次から関わっており、地域にとっても大切な活動だと考えている。子ども食堂に対し、学長はどのようにお考えか。</p>	<p>地域連携室/社会福祉学科</p> <p>【地域連携室】 まずは、本学で行われる「子ども食堂」について、積極的にサポートいただき本当にありがとうございます。地域連携室にとっても、「子ども食堂」の活動については、全国的にも報道されているとおり、とても大切な活動と認識し、サポートをさせていただいております。今度も、社会福祉学科だけでなく、是非他学科のお友だちにもお声をかけて、皆さんの積極的な活動を期待します。学生の皆さんの行動が、地域における貢献活動となります。今後ともよろしくお願ひします。</p> <p>【社会福祉学科】 本学の子ども食堂は、地域の子どもの「居場所づくり」を目的とし、また、大学生が主体となって活動するため、学生のボランティア精神、企画力、グループワーク力、リーダーシップなどの成長につなげることも目的としている。本学で開催される子ども食堂は年3回程度だが、学生が子ども食堂の企画・実行を主体的に行うことによって、その経験知を活かして地域のリーダーになることを目指している。 また、当初の子ども食堂の活動は「社会福祉学科」に限定したものであったが、2018年度からは全学科に広げ、全学の取り組みになっている。そのため、多職種連携教育（IPE: Inter Professional Education）の場としての機能も果たしている。</p>	<p>子ども食堂の取り組みは全国の様々な地域で行わたが、一番難しく大切なことは「継続する」と「参加者に敷居を感じさせない」ことだと考えている。 本学でも継続の危機はあったが、社会福祉の先生方の理念や努力が理解され、また対象者や対象エリアも広げて実施されている。先般も、自力で食事できない子ども達に、介助しながら食事を提供していた姿を見たが、その体験をきっかけにスタッフの学生が何を感じて、どういふ福祉人材を目指すのかが大事である。 また、将来は他の子ども食堂との連携、あるいは社会福祉学科だけでなく他学科とも連携して実施していくことを目指して欲しい。</p>
	15	<p>キャリア開発の授業について</p> <p>人間社会学部が必修となっているキャリア開発は、外部講師についても観光系に偏りがあるので、もっと福祉系の内容や講師からの話を聞かせてもらいたい。</p>	<p>キャリアセンター</p> <p>キャリア開発における外部講師招聘の意図は働く意義、社会人としてのものとの考え方、考え方、仕事に対する姿勢に触れ自らの成長につなげてもらうことです。業界を超えて感じていただきたいと思ひます。また、福祉系の事業所の話を聴く機会は、5月の学内企業説明会をはじめ、4～6月頃に募集したインターンシップ、夏休みを利用した事業所見学等を別途案内しています。事業所が実施しているボランティアへの参加等自ら求め参加する姿勢も持ってください。ご希望があればいつでもキャリアセンターにお申し出ください。いろいろ相談に乗りますよ。</p>	<p>授業アンケートにも同じ意見がたくさん出ているので、改善させます。ただ、レッテルで判断するのではなく、色んな人の話を聞いてみることは大切なことだと覚えておいてください。</p>
健康栄養	16	<p>施設整備について②</p> <p>5号館2Fの栄養教育論実習室(5203)のパソコンが古く、授業中にフリーズするなど不便な点が目立つ。3年生になると必ず使用するので、改善して欲しい。</p>	<p>教務課/総務課</p> <p>優先度が高いと考えますので、来年度までの更新を目標に対応します。</p>	<p>優先度が高いと判断するので、早期に改善する。</p>
	17	<p>雑感</p> <p>私は、コンビニでLAWSONが一番好きなので、学内にできることは本当に嬉しく思っている。 学科の先生方も大好きで、こちらの意図をくみ取って対応してくれることには本当に感謝の念が絶えないし、学長Café参加のような機会をいただけたこともそうである。 5号館の照明切れや空調不良にも迅速に対応いただき、本当にありがたく思っている。</p>	<p>健康栄養学科</p>	<p>私も本学の学生たちのことが大好きである。そのように思ってもらい、とても嬉しく思ひます。</p>
	18	<p>教員について</p> <p>薬学部の先生に対して、私は本当に好き嫌いがなく、どの先生にも感謝している。先日、3年生と先生方との交流会が催され、そこでもお互いに腹を割った話もできた良い機会だった。 学生が本当に感謝していることを学長から先生方に伝えて欲しい。</p>	<p>薬学事務室/薬学科</p>	<p>先生方と信頼関係が築けることは何より素晴らしい。ただ、中にはすれ違いが生じ、関係がこじれる場合があることが残念だ。また、そのような交流会には、ぜひ私も招待して欲しい。</p>
		<p>図書館について②</p>	<p>図書館</p>	

第12回学長カフェ【2019.2.15】（学生の意見と回答について）

学科	No	学生からの意見・要望	担当部署回答	当日の学長回答（要旨）
薬	19	図書館の座席数を増やして欲しい。	”過去にラーニングcommons設置等で閲覧席の配置替えと拡大を実施し現在に至ります。毎年増え続ける資料等を配架する場所を確保しつつ、閲覧席を確保することは図書館の課題ですが、現状では建物面積・構造上、座席を増やすことは難しいと考えています。 日中は混雑する場合がありますが、荷物置きでの席の占有も見られしますので、譲り合った利用を館内放送や巡回で指導し、利用できる席の確保に努めたいと思います。また、試験期間中は日曜日の開館を実施して利用しやすい環境作りを目指していますので是非活用してください。”	定期試験中などは混雑しているが、普段の利用率が高いかといえば決してそうではないのが現状である。 またビブリオバトルなど、図書館主催のイベントに関心が低いことも気がかりである。まずは普段から多くの学生に図書館を利用して欲しい。
		施設設備について③	薬学事務室/総務課	
	20	今冬、6号館の空調設備不調により、インフルエンザが蔓延した、CO2濃度が高くなった、空調が繋がっているため窒素酸による異臭騒ぎが発生した、等があったので、設備の改善ができないだろうか。	設備改修は随時行っております。 換気設備は全ての教室に設置してあるので、気になるようであれば積極的に使用してください。 また空調だけでは、どうしても換気が不十分にもなるため、休み時間には窓を開けるなど、運用面での改善も検討が必要かと思ます。	大学が大きくなるにつれ、建造物も建て増しされてきた経緯から、空調設備も老朽化または複雑化している中、総務課を中心によく整備されてきた。ただ換気が不完全、あるいは冷暖房が効きにくい等の状況に対しては、改善の努力を続けていく。
		施設設備について④	教務課/総務課	
	21	学内のFreeWiFiについて。 アプリケーションソフト「スグキク」を使ってここ数ヶ月授業が行われたが、WiFiへの接続がうまくいかなかったので、改善して欲しい。	昨年度も3か所増設するなど、Wi-Fi環境も随時改修しております。 その教室だけなのか多くの教室が該当するのか確認し、対応します。 また、Wi-Fi環境の利用が、教育・研究の限定されたものであれば、まだ比較的、通信容量にも余裕があるところですが、スマートフォン等による私的利用も特に制限していない(制限できない)ため、通信環境の改善と使用料の増大が、結果として、いたちごっこになっている可能性もあります。ICTの授業等での活用は大学としても推進しているところですが、授業本番での利用前に、一度テストランをするなどして、現在の通信環境で実現可能な取組なのかを、あらかじめ確認し、その時点で支障が生じるようであれば改善してから実施するという仕組み作りも必要なのかもしれない。	WiFiの環境はかなり改善させてきたが、講義中に繋がらないのは授業にも支障があるので、どの教室かを確認して改善させる。
		薬学部の教員について【アンケートより】	薬学事務室/薬学科	
22	学生の意見も親身に聞いて下さって、とても充実した1日を過ごすことができました。昨年度に引き続き、今回も参加させて頂き、本当に嬉しい限りです。本当にありがとうございました。 もう1点、皆さんの前で伝えられない要望があり、薬学部教員の挨拶がよろしくないという意見が周りからあがっていました。注意喚起をお願いしたいです。	本件については、5月の学部教授会において学生委員の教授より報告され、その際に以下のように議論がなされた。多くの先生方は学生の挨拶に対してはしっかりと対応しているようであるが、学生から挨拶がない場合には、返事をしない教員が殆どであることが分かった。今後は、たとえ学生から挨拶がなくても、教員側から積極的に挨拶の言葉を(笑顔と共に)発するよう努力することで合意した。		
	Medical Pharmacies for Community (MPC) について	国留センター		
23	前回の意見がとても良い方向へ検討されていたので、とても良かった。 MPCの海外留学の情報は掲示だけでなく、説明会なども開催されれば、もっと希望者が集まると思った。自分を含めて2人しか参加していなかったし、友達も情報を知らなかったため、やはり説明会があったらいいなと思います。	薬学部教員コメント:九州・中部四国の薬局が中心となり設立した研究会(Medical Pharmacies for Community:MPC)が主催するMPC海外研修は、本学から参加するのに適した学年を検討しなければならぬと考えています。他大学の参加する学生は5年生が中心となっていますが、毎年行われているMPC海外研修期間において、本薬学の5年生は進級判定に関わる重要な試験が入っているため、参加するのが難しい状況です。しかし昨年度、本学から参加した教員として、このMPC研修の重要性を報告書をまとめ、5年生が参加できるように、学内試験スケジュールの検討を榎原学部長及び薬剤師国家試験対策委員会に提言いたしました。説明会の開催については、来年度のMPC海外研修の日程が本学に届き次第、説明会を開催していただけるように、MPCの担当者とは相談し、決まり次第連絡致します。		
	コクサイマートについて			
24	前回、事務局長から今年度中に改善の目途をつけるという回答があり、それがLAWSONという形で実現できたことに感謝したい。また学生の間でも期待が高まっていることをお伝えしたい。		コクサイマートと学生食堂は「庄屋」の運営であったが、コクサイマートはLAWSONに、学生食堂は「庄屋」自体の経営母体が変わる。これまでとは異なるサービスを学生に提供できるようになるが、学生食堂運営がどう変わっていくのか不透明な部分もあり、学生に不利益が生じないよう努めたい。 またLAWSON誘致も決して平坦な道ではなかった。お互いより良い関係を築けるように、また自分たちのお店だという意識を持って、多くの学生に利用して欲しい。	
	施設整備について⑤	教務課/総務課		

第12回学長カフェ【2019.2.15】（学生の意見と回答について）

学科	No	学生からの意見・要望	担当部署回答	当日の学長回答（要旨）
学生会	25	<p>体育館共用室の空調やトレーニング場整備について、すぐに実現できないことは十分に納得できるが、このことを体育会に伝える際、どの程度待つ必要があるのか、スケジュール感や上手な伝え方を伺いたい。</p>	<p>この学長カフェでも各種の施設設備システム系の修繕・改善意見が出ているように、開学から20年が経過し経年劣化や故障の頻発、また学部学科の増加や、教育・研究・学生生活を改革・改善により、管理すべき建物・施設・設備・システム・ネットワーク自体も大幅に増加してきています。なかなか学生の目につく部分ではないかと思いますが、これら見えない部分のインフラ維持のランニングコスト、修繕・更新にも、相当額の経費を支出してきていますが、その一方で、ようやくここ数年で単年度の収支が黒字化した状態で、投資のための十分な資金はいまだ不足している状況です。そのため限りある資金について、優先順位と、投資対効果を見ながら適宜、環境整備を行っているところですが、残念ながら明確に時期をお答えすることができない状況です。周年事業における寄付金募集などを活用して対応していきたいところです。</p>	<p>2020年には大学が20周年を迎え、これに向けて記念事業や寄付金募集などが始まる。この時、財政支出が可能であれば、優先順位をつけて、学内の環境整備に努めたいと考えている。</p>
	26	<p>学生会長として ここで話されたこと、学長や事務局長がおっしゃられたことを、参加している学生皆がきちんと持ち帰って、友人や学部生に広めていくことが大事だし、それがこの機会を得た学生の使命だと思うので、ぜひお願いします。</p>		